

山陰労災病院の基本理念

私たちは、信頼される・優しい・効率の良い医療を実践し、地域の皆様と勤労者の健康を守ります。
「信頼・優しさ・効率」

見えてきた増改築の内容

平成 25 年 8 月 29 日に第 2 放射線棟および仮設棟（産婦人科・小児科を配置）などの整備工事の安全祈願祭が執り行われ、平成 29 年 12 月までの予定で、増改築工事が正式に始まりました。増改築の内容が少しずつ見えてきましたのでその一部を御紹介いたします。まず、外来は関連のある科がセンター化されます。例えば、心血管センター（循環器科＋心臓血管外科）、脳神経センター（神経内科＋脳神経外科）、消化器センター（消化器内科＋外科）などです。超音波検査は各々の科で独立して行っていたのを統合して中央超音波検査センターとして発足します。内視鏡室は現在のほぼ 2 倍の面積に拡充されます。新棟 1 階に現在の約 2 倍の規模の救急外来を設置します。診察室を 5 室設け、放射線棟に隣接します。そして、待望の患者図書室も新設する予定です。皆様に、夢があり希望のある場所として病院を提供できるよう、今後とも努力する所存ですので、宜しくお願い致します。



副院長
岸本 幸廣

イベント案内

労災病院展 2013

地域に開かれた病院として、地域の皆さまにより一層当院を知って頂くため、イオン日吉津店にて「労災病院展 2013」を開催します。

■開催日時 平成 25 年 10 月 26 日（土）13 時～16 時

■開催場所 イオン日吉津店 3 階フードコート横催場

■催し

- ①医師、看護師、薬剤師、栄養士による何でも相談コーナー
- ②血圧測定、血糖測定、血管内エコー測定
- ③AED の使い方講習
- ④薬の調剤体験
- ⑤職員有志によるミニコンサート
- ⑥救急車試乗体験 など



お知らせ

敷地内禁煙

平成 25 年 9 月 1 日から敷地内全面禁煙を実施します。
健康増進法の第 25 条の定めにより、受動喫煙防止及び喫煙による健康被害の防止の観点から、敷地内での喫煙を禁止します。ご理解とご協力をお願いします。

禁煙外来の開設

平成 25 年 10 月から
毎週木曜日（午後）
禁煙外来を開始します。

看護師・助産師募集（経験者大歓迎）

産婦人科・小児科新設（平成 26 年 4 月）

診療科紹介

整形外科

【概要】

整形外科は、脊椎を含めた骨関節を扱っています。その内容は、関節疾患、脊椎脊髄疾患、骨粗鬆症、末梢神経障害、スポーツ障害、骨折・脱臼・脊椎損傷などの外傷性疾患です。8月より岡野が鳥取大学より赴任となり、整形外科医8名体制となりました。我々のモットーは全員で力を合わせ、効率的かつ丁寧な医療を提供することです。当科で行っている診療内容を具体的に述べます。

【骨折などの外傷】（大塚・金子・小畑）

骨折などの外傷は、整形外科の最も重要な分野です。骨折の治療はスピーディーさが大切です。麻酔科や内科の先生の協力をいただき、早期にかつ安全に手術を行う環境を整備しています。

【関節外科】（岡野・大月・大塚・熊谷）

変形性関節症・関節リウマチ・肩関節変性疾患が主な対象です。股関節や膝関節の人工関節置換術では安静期間はほとんどなく、約3週での退院となります（岡野・大月・大塚）。比較的若い症例には、骨切り術による対応も行います。五十肩（肩関節周囲炎・腱板損傷）に対する鏡視下手術も行っています（熊谷）。

【関節リウマチ】（大月・岡野）

関節リウマチの治療は、この10年で大きく変化がありました。生物学的製剤など有効性の高い薬剤が増え、関節リウマチは「不治の病」から「治癒する疾患」となりました。当科でも内服薬のメトトレキサートを軸とし、疾患活動性に応じて生物学的製剤を使用し、寛解を目指しています。

【脊椎脊髄外科】（楠城・志摩）

近年は高齢化に伴い、頰椎症性脊髄症や腰部脊柱管狭窄症が大幅に増加しています。手術は金属固定材を併用しますので、術後臥床期間はほとんどありません。約2～3週間で退院が可能です。適応を明確にして行っていますので、安心して受診してください。

【手の外科・上肢末梢神経障害】（大塚）

「手は第二の脳」と言われる重要な臓器です。手の骨・腱・靱帯損傷を必要に応じて顕微鏡手術を併用して治療しています。手根管症候群（手掌のしびれ）、肘部管症候群（小指側のしびれ）は、手のしびれを生じる代表的な疾患です。

【スポーツ障害】（熊谷）

膝半月板障害、靱帯損傷、野球肩などが主な対象となります。スポーツ障害の治療の中心は保存療法です。スポーツ障害に精通した理学療法士とともに理学療法を行っています。手術の場合には、鏡視下手術が主ですが、最新の機器を取りそろえています。

【骨粗鬆症】（岡野・大月・楠城）

骨粗鬆症は、脊椎椎体骨折・大腿骨近位部骨折の大きな原因であり、骨折により日常生活は著しく障害されます。当院では骨代謝マーカーと骨密度測定装置（DXA）を用いて、治療のモニタリングを行っています。骨密度測定は、骨折し易い部位で測定するのが理想的です。骨密度測定のみのご紹介も歓迎します。

院内のチームワークも良好で、迅速で柔軟な体制をとっています。今後とも、受診・ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

【担当医】 岡野 徹（月・金）、大月健朗（水・金）、
楠城誉朗（月・水）、志摩隆之（月・金）、
大塚弘剛（水）、熊谷達仁（月・金）、
金子忠弘（月・水）、小畑哲哉（水・金）



脳神経外科

【概要】

当院脳神経外科は、昭和 52 年開設され、以後 36 年に亘り地域に密着した診療を行ってきております。鳥取県西部地区において、急性期脳外科治療のまさに中核を担っており、手術件数は約 238 件（平成 24 年度）と、県内では鳥取大学脳外科（約 330 件）に次ぐ症例数です。特に、脳卒中の代表的な疾患であるくも膜下出血の治療では、開頭術（脳動脈瘤クリッピング術）および血管内治療（動脈瘤コイル塞栓術）を合わせた手術件数は 57 件（平成 24 年度）で県内トップクラスです（鳥取大学脳外科 58 件）。

急性期の脳卒中診療には、救急患者の対応・受け入れの事務的手続きから始まり、救急での初期処置、血液検査や画像検査による診断、必要場合は緊急外科治療、続いて急性期よりのリハビリテーション、状態の安定を待ってからの回復期病棟病院への転院といった一連の流れがあります。このような診療を円滑に、かつ確実にを行うためには、外来・手術・病棟と一貫した手厚い看護体制の確立、検査部門やリハビリ部門の協力に加えて、事務部門や神経内科・麻酔科・リハビリテーション科などとの密接な連携が不可欠であります。当院の長年のノウハウの積み重ね、および各部門の機動性の高さによってそれらを可能にしております。

最近では、脳梗塞急性期に t-PA（血栓溶解療法：点滴治療）では血流の再開通できない場合やその適応ではない場合に、当院の機動性を生かして、脳血管内治療による血行再建術を試みる事が可能になりました。この治療により脳血流の再開通を導き、完全麻痺・失語症であった患者さんの症状を劇的に改善することができるようになった症例もあります。今後も、現状に飽き足らず、手術用ナビゲーションシステム・高機能手術用顕微鏡の導入にて、さらに安全で高度な外科治療を提供することにより、地域住民の健康に貢献できるように努力したいと思っております。何かあったら、労災で良かったと思っていただけるように。

【担当医】 近藤（火・金）、田邊（月）、小林（木）

泌尿器科

【概要】

泌尿器科は腎臓、膀胱、前立腺など尿路と男性の性器などの疾患を取り扱います。近年は癌の患者さんの比率が増していますが、尿路結石、尿路の炎症性疾患、頻尿尿失禁、前立腺肥大症に対する治療にも力を入れています。中でも前立腺肥大症に対する経尿道的手術は約 30 年で 1500 例近くの実績があり山陰地方では屈指の症例数です。今後は従来の電気切除に加え、ホルミウムレーザーやバイポーラ電極を用いた手術を症例に合わせて選択し、手術を行うこととしています。

【外来】

外来患者数は 1 日平均 50 名程度、基本的には午前中のみ予約診療です。予約がなくても受診はできますが、長時間お待ちいただくこととなります。火曜日と木曜日は手術日であり、特に木曜日は朝から手術のため休診としています。

【入院】

年間の延べ入院患者数は約 400 名、このうち約 50%が癌患者です。癌の疑いのための入院を合わせると 70%以上となります。癌以外では尿路結石、尿路性器の炎症、前立腺肥大症が多い疾患です。

【新規癌患者数】

前立腺癌；50～70 名、膀胱癌；20～40 名、腎癌；5～10 名、腎盂尿管癌；5～10 名。前立腺癌については外来で治療中あるいは経過観察中の患者さんが 400～500 名おられます。また、特別な事情のない限りすべての方に癌の告知を行い十分な病状説明を心がけています。

【手術件数】

年間約 350 件。代表的な年間手術件数は以下の通りです。

腎摘出術、腎尿管全摘術；10～15 件、膀胱全摘術；5～10 件、前立腺全摘術；15～25 件、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）；40～55 件、経尿道的前立腺切除術（TUR-P）；35～50 件、体外衝撃波結石破碎術（ESWL）；50～60 件、経尿道的尿路結石除去術（TUL）；30～50 件

【担当医】 渡部信之（月・水・金）、門脇浩幸（月・火・水）、田路澄代（火・金）

「看護のスペシャリスト」シリーズ No. 1

— 認定看護師の活動紹介 —

感染管理認定看護師 目次 香

認定看護師制度は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的としています。その結果、医療全体の質向上に広がっていくこととなるため、診療報酬においても（明確に「認定看護師」とは明記されていませんが）存在が重視されている分野も多くなっています。

「感染管理」は医療施設、看護施設、在宅ケアなど、全ての人々を感染から守るための組織活動で、すべての部門の医療従事者と協働して取り組む必要があります。現在の医療情勢では自施設だけの活動にとどまりません。感染管理認定看護師は、その中心的役割を担うキーパーソンとなることが求められています。

日々、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、正しくかつ効率的な感染管理を計画、実践、評価し、提供するサービスの質の向上を図るといった目標達成できるよう、活動を具体化することに苦慮しています。

院内では医療安全部という管理部門に所属し、研修会開催、院内マニュアルの見直し、情報発信、ラウンドなどしています。できる限り院内の現状を知り、現場の生の声を聞きたいと考え、ラウンドだけでなく、各科の回診や褥瘡、NST 関連の委員会などに顔を出しています。

他施設との合同カンファレンス開催や院外研修会の講師依頼なども受けております。自己研鑽として、学会参加で刺激を受けるだけでなく、せめて1回/年の学会発表をと、奮起を促すため自分自身に課すようにしております。

「いつも元気ですね」といわれます。暗い調子で手指衛生を促しても、だれも耳を傾ける気にはなってくれません。「積極的に、前向きに、ポジティブに」を心がけているのです。押しが強すぎる時があるかもしれませんが、ご了承いただいて、今後ともよろしくお願いします。



手指衛生指導



院内研修会



他施設とのカンファレンス

新人医師紹介 (H 25. 8 以降)



整形外科部長 岡野 徹

【出身】 広島県 【趣味】 硬式テニス、サッカー（今はもう無理）、大山歩き

【自己PR】

専門は股関節、小児整形、骨粗鬆症です。「労災は忙しいよ～」とみんなに言われ、びびっています。厳しくも、居心地の良い整形外科に努力します。



臨床研修医 川谷 冴子

【出身】 鳥取県 【趣味】 旅行

【自己PR】

一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします。